会　　議　　録

会議の名称	市民参加推進会議（第３８回）
事　務　局	企画財政部企画政策課企画政策係
開催日時	平成２６年７月１１日(金)午後６時00分～午後８時06分
開催場所	前原暫定集会施設２階　Ｃ会議室
出　席　者	委員長　西尾　隆　委員 副委員長　浅野　智彦　委員 委　員　赤羽　里家　委員　古畑　昭郎　委員 坂爪　智子　委員　杉本　早苗　委員 福井　髙雄　委員　川口　亜子　委員 五島　宏　委員　田中　留美子　委員 川合　修　委員
欠席者	委　員　河野　律子　委員
事　務　局	企画政策課長　水落　俊也 企画政策課長補佐　中田　陽介 企画政策課主任　工藤　真矢 企画政策課副主査　津田　理恵
傍聴の可否	(可)　一部不可　不可
傍聴者数	０人

【会議次第】

1　開　会

2　市民参加条例運用状況等について

⑴　個別ヒアリング報告

⑵　若者の市民参加について

⑶　次回推進会議の開催日について

3　閉　会

【会議結果】	全文記録ページ
１　開　会	P1
２　市民参加条例運用状況等について	
⑴　個別ヒアリング報告	
○個別ヒアリングについて田中委員、川口委員から報告（資料１参照）	P2~5
【主な意見】	
・地域の開かれた市民活動的なものには退職された年代が多いようだ。	P5
・環境市民会議のフォーラムの会場を大学にしたら、若者が入ってくれた。	P5
・市から６０万円の補助を受け、環境市民会議を運営して	P5

いるが、事務局がほとんどボランティアで、事業を継続していくのに６０万円の予算額では限界がある。	
・ごみゼロ化推進会議は平均年齢が５０～６０歳で、若い人に声をかけているが、話し合う場を設ける時間帯は、高齢者と若者ではなかなか折り合いがつかない。	P6
・補助金により行政との関係があれば、活動が起こるきっかけとなり、若者を巻き込むこともできる。	P7
・集まりがいろいろな場所を巡回するのは、場所や地域を知るきっかけになり、おもしろい。	P7
・若い人でも読み聞かせの活動をしている団体はあるが、今回報告された読み聞かせ団体とは接点・交流がないのかと思う。	P7
・雑学大学は講座の企画により集まる人数が異なる。	P9
・上之原会館に放射能測定室があり、機器の購入とメンテナンスを市が行い、市民がボランティアで食品等の放射能値を測定している。拠点があり、市の協力を得られることが基盤にあったから続けられた。また具体的な切り口が子どもをもつ母親たちの支持を得た。	P10~11
⑵　若者の市民参加について	
○事務局より関連事業の説明（資料２参照）	
・（２について）阿波踊りや桜まつり、農業祭等で若手職員が活躍している。	P12
・（３、５について）若者が主体的に調査・啓発・企画・運営を行うものとして、「小金井楽しい人の会」や、「青年会議所」があり、市の組織ではなく、若者が自分たちで主体的に行っている。	P12
・（４について）上から二つ目について、関連の資料として「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」の中学生・高校生年代の自由記述欄のまとめ部分を資料３とした。三つ目の市民意向調査については質問票を送付したところである。	P12
・（６について）地域若者ステーションとは、若者に対し相談、訓練、職場体験等、就労に向けた支援を行っている施設である。これをどう市民参加に結びつけるかということになると思う。	P12
・（７について）市民活動への参加と市政への参加と分類されており、市政の参加のほうをこの会議では審議してほしい。	P12~13
・（８について）第４期市民参加推進会議の提言で出てきたことであり、今後、経過を報告していく。	P12
・（１０について）市で子どもや若者に意見を聞く場を設けた事例として、中学生の意見を聞く「中学生意見発表会」、「青少年議会」、「生徒会交流」がある。また、第３	P13

次及び第４次基本構想の策定の際に、「子ども懇談会」を開催している。 【主な意見】	
・近い将来、投票年齢が１８歳まで下がることは、重要な課題になると思う。	P13
・意見を出してほしいのか、運営側に入ってほしいのか整理をした上で、具体的な提案を盛り込みたい。	P14~15
・施設等の計画の段階から若い人が議論する場があれば、その施設を使う主体になると思う。意見をまとめる調整を行う場づくりを進めてほしい。	P16
・重要な事業の優先順位を自治でつくっていくことを早い段階から経験するとよい。	P16
・まちの仕組みに若者のやりたいことを兼ね合わせるような形で参加させれば若者も真剣に議論するのではないか。	P17
・若者が、自分たちでルールを決める環境、機会をどうつくるかが大事である。意見だけ求めるのではなく発言に責任を持ってもらう仕組みの中で参加してもらうと、責任をもって発言し、自分たちで意見をまとめていくことにつながる。	P17
・学校で子どもたちのボランティア活動に対しポイントを付与するそうだが、学校が全体として支援する取組があったほうが参加する子どもたちが増えると思う。	P17
・「こども自転車安全体験ツアー」という国立市で行っているイベントでは高校生の授業の一部として運営の手伝いをしてもらっている。高校生が自転車の乗り方を学ぶことや、その生徒の地元でも活動に参加することを期待している。参加してもらうには入り口の設定が大事である。	P18
・自転車のルールについては試行錯誤の期間が続くと思う。このルールづくりに若者が関与する等、おもしろいと思う。	P18
・若者の意見が反映されるような仕組みをつくるとよい。	P18~19
・ただ意見を求めるより、イベント風に講座を行い情報を提供すると、意見が誘発される。小さい時にそういう経験をした後、例えば高校生になった時に長期計画にどんな形で関与するか等、さらに進んだ段階への参加ができると思う。	P19
・具体的に市と若者がぶつかりあう場面があると参加を促進するチャンスになる。	P19~20
・京都市ではＮＰＯ法人と連携して若者だけを集めて市の長期計画の中にユースアクションプランを組み込むための組織をつくった。また、現在も半ば常設的な組織として継続しており、具体的なイシューに即したものではなく長期的な形で参加を組織化することもありうる。小金井市と協働してそのような活動をやっていく団体がある	P20

かわからないが、そのような団体との協働でそういう大型の参加が成り立つ。	
・第４次小金井市基本構想に多様な市民参加の推進がうたわれているが、無作為抽出による公募委員の募集以外は停滞しているため、ギアを入れるために後期でも何かやってもいいかなと思う。	P21
・子ども・子育て会議では子ども・子育て支援に関するニーズ調査を若者の市民参加の観点からはさほど分析等しないと思うが、我々から見ると有益な情報がありそうなので長期計画にも生かせたらよいと思う。現在公開されているのは単純集計レベルだが、さらに分析をして生かしたほうがよい。	P22
・男女平等推進審議会等、市民参加に関連する要素を含んだ審議をしているところがいくつかある。市民参加推進会議は市民参加に限って言えば一番オーソライズされた機関なので、例えば男女平等推進審議会に市民参加の観点について、計画にどう実装されるか示してほしいと言えると思う。	P23~24
・個々の審議会の運営状況があるため、個別に指摘するより、市民参加を考える上で各審議会においてはこうしなさいというような、全体的に包含するものであればよいと思う。	P24
・市民参加は市庁舎の建設場所のように実体的な問題ではなく、さまざまな分野に偏在しているので、いろいろなところに手を突っ込んでいかないと話を進められないと思う。	P24
・市民参加条例を補うガイドラインをつくり、市民参加推進会議からの提案の補足資料として添付することができないかと思う。	P24
【今後の進め方について】	
・１１月の次回市民参加推進会議の前にワーキンググループを行い、論点の提案、意見を詰めていく。	P24~25
⑶　次回推進会議の開催日について	
・ワーキンググループを１０月３日午後５時３０分から開催することとなった。	P25
・次回市民参加推進会議を１１月１４日午後６時から開催することとなった。	P25
３　閉会	P25

【提 出 資 料】
1　個別ヒアリング報告様式（田中委員、川口委員）
2　第５期市民参加推進会議 論点の提案まとめ
3　子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書より抜粋
4　古畑委員からの参考資料

第３８回小金井市市民参加推進会議

日　　時　　平成２６年７月１１日（金）午後６時００分～午後８時０６分
場　　所　　前原暫定集会施設２階　Ｃ会議室
出席委員　　１１人
　委員長　　西　尾　　隆　委員
　副委員長　浅　野　智　彦　委員
　委　員　　赤　羽　里　家　委員　　古　畑　昭　郎　委員
　　坂　爪　智　子　委員　　杉　本　早　苗　委員
　　福　井　髙　雄　委員　　川　口　亜　子　委員
　　五　島　　宏　委員　　田　中　留美子　委員
　　川　合　　修　委員
欠席委員　　１人
　　河　野　律　子　委員

事務局職員
企画政策課長　　水　落　俊　也
企画政策課長補佐　中　田　陽　介
企画政策課主任　　工　藤　真　矢
企画政策課副主査　津　田　理　恵

傍 聴 者　　０人

（午後６時００分開会）

◎西尾委員長　今日の会議は台風でどうなるかと気をもんでいたのですけれども、大快晴になりましたね。今回、第３８回ということで、今期に入って５回目の市民参加推進会議を始めたいと思います。

本日は、河野委員から欠席ということを伺っていまして、定足数は半数をもって成立するということですので、皆さん、いらっしゃっているので、成立いたします。

今日は６時から８時までということですので、いつものようにまとまりのよいところで休憩を取りたいと思います。

それでは、資料について、事務局から説明をお願いいたします。

◎事務局　資料の確認をさせていただきます。

本日の次第

資料１　個別ヒアリング報告様式（田中委員、川口委員）【事前配付】

資料２　第５期市民参加推進会議 論点の提案まとめ【事前配付】

資料３　子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書より抜粋【当日配布】

資料４　古畑委員からの参考資料【当日配付】

配付漏れ等ございませんでしょうか。

以上です。委員長、よろしくお願いいたします。

◎西尾委員長　どうもありがとうございました。

今日は議題が二つあります。一つが「個別ヒアリング報告」、それから、「若者の市民参加について」ということです。田中委員、川口委員からヒアリングの報告をいただいていますので、その内容を少しご説明いただいて、進めたいと思います。

それでは、田中さんのほうからお願いします。

◎田中委員　小金井雑学大学のヒアリングをいたしました。ヒアリングの対象者は、小金井雑学大学の代表理事と副代表理事に頼んで、２人一緒にヒアリングをしましたので、私がまとめました。

活動の内容を見ると、７０代を中心にということで、大変高齢だというのがわかると思います。この小金井雑学大学は、平成１０年に設立になって、今年１６周年目を迎えました。活動していく上で困っていること、苦労していることというのは講師をお願いするのがとても難しいことです。でも、小金井とその周辺には、いろいろな方面の勉強をしている方がいらっしゃって、快く引き受けていただけるのですが、月２回講義を行ってますので、選定には追われています。

そして、運営にかかわってくれる人が少ない。結局、高齢化でどんどんやめていってしまうので、今、７人なのですけれども、５人が６０代後半かつ７０代、それ以下は２人しかいません。そのために、今後、力を入れていきたいというのは、若い人を増やしていきたいということですね。多様な人たちの参加を促していきたいと思います。

４番についてですけれども、若者の市民参加について、「・」がたくさん並んでいますけれども、何か話していくうちに全体のことになってしまったため、下２行にまとめました。全部のことは話し切っていないと思います。何しろ市民参加が難しいという話に尽きてしまって、その話ばかりになってしまったので、ほかの話はあまりしていないところがあります。

そして、市民参加は難しいけれども、この市民参加をどうしたらいいのかというのは、前にも言いましたけれども、何かターゲットを絞る。ただむやみにポスターを配ったり、カリキュラムを渡したりしても何にもならないので、そのテーマが学生の勉強なり、仕事なりに生かせるような、学生にとってもメリットがあるようなものを持っていって、いろいろなところに言っていかなくてはならないのではないかという形で話ができました。以上です。

◎西尾委員長　どうもありがとうございました。

質疑応答、議論は後で一緒にやることにしまして、続いて川口さんから２件お願いいたします。

◎川口委員　実は、私の属している小長久保公園の花ボランティアの方々にも一応、ヒアリン

グをしようとしたのですけれども、お花を見ているのが好きだからやりたいのよという、やはり６０代後半というか、７０代前半という方々が多いので、ヒアリングというものがあまり成り立たなかったというので、一応、２件だけ出させていただきました。ヒアリング相手は団体名ではなくて、個人名にしてしまいまして、すみません。

資料１のｐ２は、ピンシャンコロリ研究会、ＰＳＫという、これは長野のお医者様で．ピンピンコロリという、最後までピンピンして、最期にコロリと死ねるという、スパゲティー状態ではなく、自分の死を尊厳死を選んで死んでいけるような形に持っていこうという研究会なので、目的は地域で最後まで頑張って健康で生きて、最期は短い期間で死ねるような、そういう自分たちを心身ともに鍛えていくにはどうしたらいいかということをやるので、構成員が男女半々ですが、やはり対象年齢が７０代前後がほとんどですね。

それで、主な活動は、福祉会館で理事会。やはり講演会が主なのですけれども、講演も、例えば、家族に自分の尊厳死の意思をどう伝えるかとか、そういう題材になってしまっております。会員自体でウオーキングを月に１回から２回行ったり、マージャン大会をやったり、あとは談話サロンをつくって１年に数回やって､その日､自分の持っているテーマを話し合ったり、それから、ソフトランディング部会というのは、自分の終末をどう考えて、どう実現していくかというのを、講演を含めながらまとめて考えて伝えていきたいということで、ほとんどどう死ぬかというところにたどり着きたい集まりだと。

発信の方法は、会報、市報、あるいは講演会のお知らせはがき、市民掲示板などを使っております。

２００１年から研究会として立ち上げて、５年後にＮＰＯとなり、今に至っております。そして、元締めといいますか、中枢になっていた会長のお医者様だった廣野先生が今年早々に亡くなりまして、それこそピンシャンコロリの精神を強く持って、自分の死をきちんと迎えるというお手本を示していただきまして亡くなりましたが、今、現事務局長が会長を兼務しております。そのように、メンバーを増やしたいのだけれども、３人増えると４人、いろいろな意味で退会なさる形になるというので、１５０名から１００名の間を行ったり来たりでやっております。

あとは、居場所は今、福祉会館が主にその活動の話し合いの場所になっているのですけれども、福祉会館が今、建てかえの問題とか、いろいろありまして、居場所をつくるというのがテーマの一つになります。

４番になりますが、利用は福祉会館、市の行事は福祉会館まつりに参加して、理事が寸劇を上映しております。

他市と比べることは、他市はよくわからないのですが、小金井は活動しやすいよというのはいろいろな方から伺っております。

あと、現実が最優先で、今、生きるのに一生懸命な若者に、どう死ぬかという話は、多分、宇宙旅行するみたいな話だと思うので、なかなか働きかけが難しいです。ただ、必ず人間は死

ぬのであるし、自分の親の死に立ち会って初めて若い年代が死というものを考える時代なので、若者に対しても働きかけていきたいという気持ちは十分にありますというお話でした。若者をどう巻き込んでいくかという、ここの問題にはなかなか達しないヒアリングになってしまって申しわけありません。

次（資料１のｐ３）は、読み聞かせの会なのですね。こちらは子どもたち対象なので、お母さんたちが若いので、もっと聞き込めるかなと思ったのですけれども、地域の子どもたちに絵本の楽しさを伝えて、心にほっとした時間を持ってもらいたいということで、活動しているのは５０代から８０代で、８０代の方が始めた活動だということです。

場所は図書館、児童館と、東町の人たちとはそこそこのつながりを持てている。

あと、お知らせは市報でやっているそうです。

昭和４８年ごろからというので、結構古い、頑張ってやってきているグループだと思います。ただ、会員が増えにくい。どこの活動している団体でも会員が増えにくい。あと、若いお母さんが入っても、介護が入って、ちょっと抜けたいということがあったりする。ただし、この活動はとても子どもたちにとって大事だと思う気持ちで続けていきたいので、とにかく持続することを目的にしているそうです。

小金井の施設は利用しやすいし、小金井は活動しやすいというご意見でした。

あと、若者の市民参加における障害は、若者が何歳から何歳までという設定が難しいのですが、やはり若い世代というのは日中は忙しい。夜になるとまた、例えば、このグループで言えば、８０代の方がいらっしゃるということで、若者と一緒に活動する時間が設定しにくいと考えていらっしゃるようです。

あと、若者参加の工夫は、若い学生さんに読み聞かせの読み手になってもらえたらいいのだけどなあとおっしゃっていました。

あと、イベントの内容、場所というのは、このグループだけではなく、ここから一般論になってしまうのですけれども、若者は夜で、例えば、Ｂ級グルメだとか、音楽だとか、そういうグルメイベント、キャラクターイベントだったらば、わあっと集まってくるのよねという一般論になっておしまいになってしまいました。

あとは、講演会などは、魅力のある人、今、知名度の高い人を呼べば、若い人も来るのではないでしょうかという、結局、自分のグループでどう若者を取り込むかというよりも、一般論になってしまうほど現実的ではないというところで終わってしまったようです。

◎西尾委員長　どうもありがとうございます。

確認ですが、ＮＰＯピンシャンコロリとは、ＮＰＯなわけですね。

◎川口委員　ＮＰＯです。研究会でＮＰＯになっております。

◎西尾委員長　ホームページはありますか。

◎川口委員　ホームページはあったと思います。

◎西尾委員長　それから、もう一つの読み聞かせの会。頭に「小金井」とかはなく、読み聞か

せの会ですね。

◎川口委員　はい。すみません、個人名だけ聞いて、グループの名前をきちんと確認しませんでした。

◎西尾委員長　これが最初の議題で、今から議論していきたいと思います。そのほか、これに対して、何か参加されたとか、そんなことはおありでしょうか。

私は、私の属している自治基本条例三鷹市民の会のメンバーから連絡を受け、武蔵野市でも武蔵野市民が自治基本条例をつくりたいというグループ、武蔵野市民自治連絡会に呼ばれて、７月８日に武蔵野プレイスに全部で３０人ぐらいが集まって、三鷹のほうからプレゼンをした後、質疑応答するというイベントに行きました。自治基本条例三鷹市民の会の平均年齢は大体７０歳ぐらいなのだけれども、武蔵野市民自治連絡会のメンバーはもうちょっと高かったかもしれないですね。代表の弁護士の方が私よりちょっと若いかもしれません。少ないサンプル数ですけれども、いろいろな市民活動をしているのが、退職された人が多いということは、ちょっと感じられるところかもしれないですね。もちろん若者もいろいろなところで集まっているようで、私自身も具体的にもそれは知っていますけれども、いわゆる地域の開かれた市民活動的なものはそういうところなのかなという気がいたしました。

では、質問を含めて、皆さんのほうから、いろいろ聞きたい、ご意見を述べていきたいというのがあると思いますので、いかがでしょうか。

◎杉本委員　行政と協働でやっている大きな団体が二つあって、私はどちらも今、所属しているので、行政との関係もあり予算も取れて、そして事務局もやっている団体と、そうではなくて、予算はもらっているけれども、活動はボランティアだという団体、二つあるのですが、環境市民会議は基本条例に基づいて、環境基本計画の中できちっと位置づけられた環境市民会議として立ち上がったのですね。総会も含めて、皆さん、市民に広く開かれて、誰でも入るというところなのですが、実は、その団体はもう今、４年、５年、もう少しになるかな、前条例の時に位置づけられてからすぐできたのですけれども、やはり平均年齢が高いということで、どんどん若い人たちを私たちの活動に入れようと思って、学芸大の若者や法政大学の若者をどんどん呼び込みました。私たちは１年に１回、フォーラムをやるのですが、そのフォーラムの場所を毎年、大学にしていったのですね。学芸大学、法政大学、それから、東京経済大学でもやりました。最後、市民交流センターでやったのですが、やはり若い人たちは入ってくるのですが、卒業するといなくなってしまうのですね。でも、それはそれで一つ意義があって、若者が私たちと一緒にやることには意義があると思うのです。だけれども、事務局はボランティアで全部やっているので、私たちは３事業をやるという約束で予算を６０万円もらっているのですが、それを全部こなしていくというのは、すごく事務局が大変なのですね。ほとんどボランティアでやっているので、継続していくのに、６０万円の予算額では限界がある。誰か１人におんぶに抱っこしなければならないという現状を、今、課題として抱えています。それが環境市民会議。

もう一つのごみゼロ化推進会議のほうは、これも市と協働なのですけれども、小金井市と一緒にごみ減量の活動に携わっているということなのですけれども、これも私たちがいろいろやりたい活動についての、例えば、施設見学とか、それから、講座開設とか、そういうものに関しては、市からお金が出ます。ただ、ごみに関しては、本当に私たちも一生懸命、若い人たちにも声をかけているのですけれども、平均年齢がやはり５０から６０歳。若い人たちは普段の会議にはなかなか出られません。ごみに関心があっても、一緒に話し合う場は、高齢者と若者ではなかなか折り合いがつかない。一度、夕方やったことがあるのですが、その方のためにわざわざ設定した夕方でも、行政がその間、職務の後、やはり協働ですから、そこに入って来られる時は難しいということで、時間をとっていただくことになかなか無理があったということです。でも、ぼちぼち、個人的に引き抜いているのですが、少し入っていただかないとということでやっています。

◎西尾委員長　６０万円という予算は、どんなものに使うのですか。

◎杉本委員　一番大きいのが、年に１回の環境フォーラム。これを設定するのに、映画の上映をやったりとか、そこでいろいろな物品があるので、それに使うということ。あと、施設見学にバスをチャーターしたりとかというのもありますね。それから、あと一つは、環境講座をつくるということで、環境講座には講師の謝礼などが発生します。いろいろな事務費などを総合して、市からの委託になるのですかね、その委託を受けて、その３事業をやるという、そういう契約のもとに活動している団体です。

◎西尾委員長　そのほか、何かありますかね。

行政のほうから、こういうものを、補助金を出せば、より活動が盛んになるかもしれないのですけれども、そういうような方針とかはありますかね。聞かれていますように、６０万円では運営は厳しいとか、そういう発言について、どのように。

◎川合委員　基本的には所管課とやりとりをしていますが、我々のところではない、個別のほうの事業という形になっていきますね。だから、その団体に対する補助金の交付についての中のレートについては、その団体を所管する課が中心にやっておりますが、その辺の状況がどういうふうになっているかというのは、多分、事務局はわからないのかなという気がしますね。

◎事務局　中身がよくわからないので恐縮なのですけれども、補助金の場合ですと、大体、各補助金を出す時に交付対象や金額を規定する要綱をつくります。要綱をつくるに当たって、市の中で補助金内容を検討する内部の委員会がございまして、その委員会で補助金の中身を変えるような、新しい補助金を設ける時は、補助金についていくつか、こういう原則に合っているか等というルール決めをしてあって、そのルールに沿って補助金の支出を決めているというふうにやっています。なので、変更等をする場合は、その都度、そういうルールに合うかどうかを判断しながら、各部局のほうで判断して予算要求をしていくという流れです。

◎西尾委員長　附属機関等の事務局を庁内の各課で担当しているように、市民の活動みたいなものを、各課で把握はされるのでしょうかね。実は、把握は多分、できないだろうと思います。

ものすごく多い可能性があるので。

◎事務局　１個ずつ細かくの把握というのはちょっと難しいです。

◎西尾委員長　補助が出て、行政との関係ができれば、それは活動が起こる一つのきっかけですね。そういうところで若者を巻き込むこともできると思います。それから、いいアイデアだなと思ったのが、場所を巡回することですね。一見関係ないような話なのですが、被災地で議員さんが、地域が崩壊しているわけですから、行政ももう動けないので、霞が関に行って陳情などをしているのです。陳情を受けた側が、地元でやることが山のようにあるのにと言ったら、議場が壊れたから集まれないのだということだそうです。それに対して、片山元総務大臣が、議会などというのは建物の話ではなくて、公民館なり、自分たちで集まればいいだけの話だということを書いておられたのをつい最近読んだのです。

例えば、イギリスなどでも、議会が地域の中のいろいろなところを動いているのですね。それは議会なのですけれども、集まりがいろいろなところを回るというのは非常におもしろい考えだなと思いましたね。いろいろな場所や地域を知るきっかけにもなりますしね。大学なんて、普通の市民にとっては、そうでもないとあまり用がないところかもしれませんので。

３件ご報告、それから、杉本さんから二つの会についてのお話がありました。皆さんのほうから、これに対しての感想なり、コメントなり、いかがでしょうか。

◎浅野副委員長　読み聞かせの会の方へのインタビューで、こちらもやはり高齢化が進んでいるということだったのですけれども、私のイメージでは、若い人も読み聞かせとかって関心持っていそうな印象があるのですけれども、そうでもないのでしょうか。

◎川口委員　集まるのは大体、自分の終末をどう、終活を考えている人がやはり多いです。

◎赤羽委員　私は、今、小学校で読み聞かせや、クラスのお世話をしています。私の知り合いの方で、お子さんはもう中学生ですけれども、どういった活動をされているのかわからないのですが、絵がない状態で素語りの活動をされている方がいます。クラスの読み聞かせの時間があいた時には、その方に頼んで来ていただいたりしています。若い人でも、多分、そういう活動をしている団体はあって、個人ではなくて、何人かのグループでされていると思うのです。だから、たまたまこの方とは交流がなかったのではないかと思います。緑児童館で、その方は、「おはなしのとびら」という読み聞かせのイベントをしてくださっています。接点がないということなのかなと思いました。

◎西尾委員長　昔、私が参加した三鷹市のまちづくり研究会で、市民活動の連携は可能かというテーマがありました。同じ建物でいろいろな活動をやっている人がお互い知らずに、時には「キムチクラブが臭い」とか反目はあっても交流が少ないということを、コミュニティー課の職員が日々感じていたというのですね。実は、この前の８日の三鷹・武蔵野会合のお礼のメールが今日来ていて返事をしたのですけれども、武蔵野は市民自治連絡会で、お互いよく似たテーマで、十数年ぐらいは並行してやっているのですけれども、お互い全く存在さえ知らなかったのですね。これは市が違うというのはありますけれども、このようなことかもしれませんね。

読み聞かせは多分、拠点として図書館があったり学校もありますかね。

◎川口委員　学校の地区で分かれていると、全然交流は見えませんよね。

◎赤羽委員　東児童館だってやっていますね。私の知っている方は緑児童館です。

◎川口委員　あと、確か市民まつりで大きな絵本の読み聞かせみたいなのはやっているみたいです。

◎浅野副委員長　市のほうで読み聞かせの講座を、今年も夏にやるようですね。小金井市のサイトに掲載されているのですけれども、７月１２日に「ようこそ読み聞かせの世界へ」という行事をやっていますね。講師は須山優子さんという、ＮＰＯ法人「語り手たちの会」の理事と書いてあります。

◎赤羽委員　講演会みたいですね。行ってみようかなと思いました。図書館にお知らせが置いてありました。

◎浅野副委員長　ということは、たくさんあって、若い人もいるところにはいるという。

◎赤羽委員　いるということだと思います。

◎川口委員　私の知り合いにはいない。

◎赤羽委員　私は、そういう方たちにもこのアンケートを書いてもらおうと思いました。読み聞かせの方ではないのですけれども、手仕事教室とかをされている方とかにお願いして、聞いてみたのですけれども、何を答えていいのかわからないということでした。その場ですぐ記入するのは難しいということで、プリントアウトしたものを渡しました。普段から持ち歩いています。ヒアリング用紙に書いて渡してもらいたいと１カ月前ぐらいにお願いしたのですけれども、何を書いていいのかわからないから、ごめんなさいねと、この間、言われて、まだ返ってきていないです。

◎西尾委員長　こういう会は、これは７人ですけれども、ちょうどいい人数なのかもしれないですね。５０人前後でやるとなるとお互いいろいろと大変になりますね。５０人の会は、本当は大きいのですね。

◎川口委員　ただ、講演の時に集まる方は１５０人全部集まるわけではなくて、興味があるというか、例えば、自宅での看取りとか、ちょっとキャッチーなものになるとどっと１００人近く来たりとか、ちょっと学問的な話になると５０～６０人とか、寄せたり引いたりはあるのですけれども、一応、登録している方では１５０名ぐらい。

◎西尾委員長　これから増えていきそうですかね。

◎川口委員　関心がある人、こんなことをやっている会があると知らなかったわとおっしゃってくる方はいらっしゃいます。ここの題材とは違うのですけれども、これから介護保険が変わっていく時に、自宅での看取りをどうなっていけばいいのかというような話になると、やはりわあっと増えますね。

◎西尾委員長　雑学大学は７人ということですね。

◎田中委員　理事が７人です。

◎西尾委員長　理事、つまり運営をされている方が７人ですね。

◎田中委員　補助とかはないので、学生会員というのを募りまして、年２，０００円払うと、カリキュラムとして、今度、こんなのをやりますよというのを郵送しています。郵便が２回届くというだけのメリットで２，０００円払ってもらって、７０名ぐらいの方が会員になってくれますので、そのお金で運営しています。

◎西尾委員長　なるほどね。テーマによるのでしょうが、１回開催すると、どのくらい集まりますかね。

◎田中委員　平均５０～６０名です。この前、多摩と玉川上水という題で講演をしたのですが、すごかったです。資料が足りなくて、後から謝って送りました。１７０名集まりましたね。

◎西尾委員長　企画ですよね。

◎田中委員　だから、きっと皆さん、いっぱいチラシをまいて、どうにもならないわと思っているけれども、いい企画があったら見て、来てくださるのだなと、このごろ感じていますね。すごく波がありますね。おもしろそうなもの、あと、忠臣蔵などだと多く来ます。あと、源氏物語は女性が来るのですね。そういうふうにいろいろ、来る人がばらばらで、若い人も来ますね。

◎西尾委員長　若い人は何を見て来るか、おわかりですか。

◎田中委員　多分、ホームページかなと思うのです。

◎西尾委員長　これもホームページがあるわけですね。

◎田中委員　あります。

◎西尾委員長　最後のほうで言っておられた、若者自身のメリットになるといいますかね、いろいろためになると思うんですね。

◎田中委員　今、考えているのは、この前、赤羽さんが、ただやみくもではなくて、呼ばれて合唱に行ったというような、そういうのを聞けましたので、今度、学芸大学に出向いていって、いろいろゼミなどがありますから、教授も含めて全体にご招待して、講義をしてもらったらどうかとか、いろいろ考えているのです。そうするとちょっと交流ができるかなと思っています。

◎西尾委員長　講師を見つける大変さについては、大学で何かコネがあれば、意外とたくさんいますね。おもしろいテーマで話せるかどうか、その辺はありますけれどもね。

◎浅野副委員長　これ、高齢化ということなのですけれども、雑学大学は設立当初から中心メンバーは変わらずにずっと続いていらっしゃいますか。

◎田中委員　高齢化してやめていっています。初めからいるのは代表理事と、ちょっと後からいる私だけで、あとはどんどん変わっていっています。

◎浅野副委員長　変わっていくのは、新しく入ってくる方も割と高齢な方が多いので、高齢化が進むということですか。

◎田中委員　そうですね。定年ぐらいの人が多いです。

◎西尾委員長　これから定年延長とかという話もあるから６０歳ではフリーになっていない可

能性は高いですね。

◎浅野副委員長　７０代を中心にということは、団塊の世代の方は最大派閥というか、そうなってきますね。

◎田中委員　そうですね。８０代、９０の人もいます。それは学生ですけれども。会員になっている学生がやはり高齢の方が多いです。

◎浅野副委員長　もう一つ、小長久保公園のほうは、想像なのですけれども、お花とか好きな人は、若い世代にも結構いるような気がするのですけれども。

◎川口委員　３年ぐらい前まで４０代の女性で、庭園の勉強をなさっていた方で、３０代後半かな、お子さんが受験だ何だって忙しくなると、午前中の作業なのですけれども、離れられたのか、それともご主人の転勤でいなくなったのか、ちょっと私もはっきりしないのですけれども、１人だけいらしたのですけれども、あとは私と同世代か、ちょっと上ぐらいですね。

◎浅野副委員長　そうですか。ずっとそのまま先細りになると、小長久保公園のお花はもうなくなってしまいますね。

◎川口委員　小長久保公園は、東側がまた公園として新しくなります。ただ、今、私たちがお世話しているところは、限界はそこまでなのですけれども、新しいのが東側に開けるので、ちょっと若い人のお目にとまれば、興味持ってもらえるかなという。

◎浅野副委員長　東側は今、どうなっているのでしたか。

◎川口委員　東側は今、草が生い茂っています。

◎浅野副委員長　公園があるほうではないほうですね。

◎川口委員　細い道路が曲がって通っていきますね。あちらが反対側で、いなげやさんがある側と言えばいいのかしら。

◎浅野副委員長　わかりました。

◎川口委員　小長久保公園が多分、規模としては一番大きいかと思うのですけれども、ほかにも３カ所、市報で公募して、市民が担当して、各グループでやっている花壇があります。

◎浅野副委員長　そちらもやはり高齢化が進んでいるのでしょうか。

◎川口委員　私の家の近くの小さな、本当の花壇なのですけれども、そこは割と４０代、５０代の方が多いですね。

◎浅野副委員長　ありがとうございます。

◎西尾委員長　ここで言っているのは、いわゆる市民活動というので、市政に対する参加というわけではないのですけれども、杉本さんが言われたのはそれと関係があるわけですね。こういう市民活動をする方々は、こういうふうに公募市民として加えられていると思いますが、市民参加というのですか、市政への参加というのは、やはり普通の人よりは多いと言えますかね。より市報をよく読み、何かコメントすることがあれば、これはと思う問題点があれば、そういうものを伝えたりとか。どうでしょうか。

◎杉本委員　一つの提案も含めてなのですが、放射能測定室という団体があるのです。その放

射能測定室というのは、チェルノブイリの原発の後、市民が要望書を出して、放射能測定室をつくったのですね。これは行政とのコラボレーションなのですけれども、拠点を上之原会館の一室に置くこと、それから、機器を購入してもらうこと、そしてそのメンテナンスも小金井市が責任を持ってやっていただく。この２点か３点で、あとは市民がボランティアで、市民の人が経済課に電話をして、測ってもらいたい食料などがあったら測って、持っていって、その結果が出たら、行政のほうから経済課が知らせてくれる。それを、チェルノブイリからですから。

◎西尾委員長　以来、やっているわけですか。

◎杉本委員　ずっとやっていますね。この間の３・11 以降、小金井市の放射能測定室がすごくクローズアップされて、いろいろなところから、マスメディアから、いろいろインタビューを受けたりとか、新聞にも大きく載ったり、報道されたりもしたのですけれども、ここは新しい、若いお母さんが、私の友達ですから、もう６０過ぎた方がずっとやっていたのですけれども、何人も。次の方に少しずつバトンが渡せるような感じなのですね。それは一つの拠点があったこと、メンテナンスもある程度、市の協力を得られることというのが基盤にあったから続けられたということと、放射能測定という大きな切り口というか、具体的な切り口が、若いお母さんたち、子どもを持つお母さんたちの支持を得て、またたく間に周知度が上がったということがあったのかなと思いました。

◎西尾委員長　もう３０年近いわけですね、チェルノブイリの事故からですから。

◎川口委員　放射能測定室が発足したのも、チェルノブイリの年が１９８５年ですね。発足したメンバーたちが、その当時、若いお母さんだった。それで、やはり子どもたちのためにと思って発足して、続けてきて、だんだん年を重ねてきて、どうしようかしらねと言っている時に、不幸にも３・11 が起きたので、若いお母さんたちがまた注意を喚起されて、続ける。これは不幸なことなのだけれども、そういうことがないと、若い世代が「えっ」と思わないという、そういうこともあるんだよね。

◎杉本委員　そうですね。本当におっしゃるとおりだと思います。

◎西尾委員長　上之原会館は、人が常駐していますか。

◎杉本委員　何時から何時と当番を決めて、測定に入っています。だから、いつ行っても誰かがいるという当番制ではないですね。測る時は、週に１回か２回、決まっているような感じなので。

◎西尾委員長　最初のグループに専門家がいらしたのですか。

◎杉本委員　いえ、全く素人が始めているのです。

◎西尾委員長　そうですか。おもしろいお話ですね。

◎杉本委員　少し補足していいですか。その３・１１の時に、小金井市のドクダミや何かを測ったのですけれども、やはりものすごい異常値が出て、それは公に出るまでに、もう既に安全だと言われていた時期だったのですけれども、いち早く、その情報は私たちのところに入ってきました。

◎西尾委員長　いろいろ余韻の残る報告をしていただきました。年齢のこともありますが、若者、学校の経費もありますし、いろいろなグループが連携する可能性ももちろんあると思います。こういう活動から市民参加につながることもあるようですし、参考になるお話だったなと思います。何か追加のコメントというようなことは特によろしいですか。２のところに入ったところで休憩をしたいと思います。２番目の議題は「若者の市民参加について」ということで、皆さんから論点とその理由について出していただきました。全部について、それぞれに紹介していただくと時間がかかりますので、事務局のほうでコメントがあるのですね。では、それをご紹介いただいて、その説明をいただいたところで休憩をとろうかなと思いますので、お願いいたします。

◎事務局　市の関連事業等の説明をいたします。資料２をごらんください。

２について、市の若手職員が地域イベントに参加することを提案されています。現在、若手職員はイベントによく参加しており、例えば、阿波踊りには毎年多くの職員が参加しております。ほかにも桜まつりや農業祭等、若手職員がボランティアで活躍しています。

３、５の若者主催事業や、若者が主体的に調査・啓発・企画・運営を行うものとして、「小金井楽しい人の会」や、「青年会議所」があります。「小金井楽しい人の会」は、小金井で仕事や活動をする若手の人たちが、自分の仕事を紹介したり、１００人以上で名刺交換をしたりし、つながりをつくり、そこで出会った人同士で仕事を一緒にするといったことも生まれています。「青年会議所」では、ご存知のとおり、若者がさまざまなイベントを企画・運営しています。平成２０、２１年度に開催した市民討議会や、毎年学芸大で行っている子ども向けイベント、「キッズカーニバル」等がございます。両方とも市の組織ではなく、若者が自分たちで主体的に行っているものです。

４、浅野副委員長の提案の上から二つ目について、関連の資料として「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」の中学生・高校生年代の自由記述欄のまとめ部分を資料３としてお配りしました。三つ目の市民意向調査については、現在、質問票を送付したところです。

６の地域若者ステーションとは、立川市や三鷹市、調布市等で行っている、働くことに悩みを抱えている１５歳から３９歳までの方に対し、専門的な相談、訓練、企業への職場体験などにより、就労に向けた支援を行っている施設です。こちらは若者への支援のお話ですので、これをどう市民参加に結びつけるかということになると思います。

７については、前段に市民活動への参加と市政への参加と分類していただいており、市民活動への参加というより、市政の参加のほうをこの会議ではお話していただきたく考えております。また、ホームページについては、必要な情報にたどり着きづらいというお声をいただいており、情報システム課でもリニューアルを検討しているところです。

８は、第４期市民参加推進会議の提言で出てきたことなので、これは今後、経過を報告していくことを考えております。

９は、先ほど、ゼミ等に行くと田中委員がおっしゃったと思うのですが、どのように学生に

参加を呼びかけるのか、田中委員に聞いてみたいと思っています。

１０について、小金井市で子どもや若者に意見を聞く場を設けた事例をご紹介します。平成元年から１４回、中学生の意見を聞く「中学生意見発表会」を実施しました。また、平成１０年から「青少年議会」を行いました。市内中学校から選抜された中学生議員が代表質問、一般質問を行い、実際の市議会さながらの質問と答弁が行われていたようですが、開催地や子どもたちの日程の調整が難しくなり、一定期間開催した後、一旦とりやめ、現在は中学生が意見を言う場として、平成２３年度から「生徒会交流」を実施しています。各中学校での取組を相互に紹介し合ったり、学校をよりよくするための意見交換をしたりしているそうです。また、長期総合計画の基本構想に将来を担う子どもたちの意見を反映させるためという目的で、第３次及び第４次基本構想の策定の際に、「子ども懇談会」を開催しています。

◎西尾委員長　ありがとうございます。

市のほうからの、こういうことがあるというご説明でした。これについてのご質問などありますか。

長期総合計画に具体的にこういうところに子どもの声を反映したということはありますか。

◎事務局　現在、第４次基本構想・前期基本計画の計画期間中なのですが、こちらのほうでは、「緑が萌える・子どもが育つ・きずなを結ぶ小金井市」という将来像があるのですけれども、こちらのキャッチコピーについては、子ども懇談会での意見がもとになっているというのはあると思います。

◎西尾委員長　コンセプトですね。

◎浅野副委員長　西尾委員長提案と関連して、投票年齢が１８歳まで、恐らく近い将来下がると思うのですが、この件に関して、市の、これは選挙管理委員会関連ということになるのでしょうか、投票年齢が下がることについて、高校生や大学１、２年生をターゲットにした何か啓発活動などをやっていく予定はあるのでしょうか。

◎事務局　特に今のところ、私のほうでは把握していないです。

◎浅野副委員長　ありがとうございます。その辺、今すぐというわけではないと思いますけれども、今後、２～３年のうちには、結構重要な課題になってくるかなと思います。

◎西尾委員長　基本条例で住民投票を規定しているところは、地方自治法の直接請求にのっとっているところも多いのですけれども、年齢だけは１８にしているというのはいくつもあると思いますね。小金井市では市民投票のことが市民参加条例の一部分にありますが、市民投票条例というのがあるのですか。

◎事務局　市民投票については市民参加条例の中で規定をしていまして、平成２１年度に第１６条～第２３条に市民投票についての規定を新たに設けています。その条文についての市民参加条例の手引きの追加部分は平成２５年１０月１６日に開催した第３４回市民参加会議の資料１０として配布しております。

◎西尾委員長　これはいわゆる直接請求のところですね。これをやっているところは非常に多

いのではないかと思いますけれどもね。

◎浅野副委員長　今、気がついたのですけれども、これ、１８歳以上。もし投票することになった場合に…。

◎西尾委員長　運動は何もないのですか。条例ができて、市民投票をやろうという機運が起こったとか。

◎事務局　この前に、「小金井市の市役所建設場所を選ぶ住民投票条例」の制定を求める地方自治法の規定による直接請求が提起され、市議会臨時会で否決されました。その後にこの市民投票の条文を追加しました。それ以降はないです。

◎西尾委員長　庁舎の建設場所についてはどういう賛否になりえたのでしょう。市民投票は多分、あれか、これか、やるか、やめるかみたいな話が多いと思うのです。

ここら辺で休憩をとりまして、後半では、皆さんから提示された論点を個別に論議していきたいと思います。次は公式には１１月ぐらいになりますから、できるだけ、どういう骨格で報告書をつくっていくか、ご意見をまとめていくかという論点を少しずつ絞る作業に入っていきたいと思いますので、後半の議論が大変大事だと思います。

では、休憩いたします。

（休憩）

（再開）

◎西尾委員長　それでは、再開したいと思います。

浅野先生のほうから請求があって、「小金井市子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書」の抜粋を資料３として配布しました。中学生・高校生の声を集められていまして、非常に貴重な資料です。ある意味では若者の一種の参加ですよね。声を上げるという。これを話題にしたいと思います。どなたからでも、感想なり、いかがでしょうか。これはアンケートに自由記述がありまして、その抜粋なのですね。この報告書は３月に出たもので、統計的なグラフが多いのですけれども、最後のほうにたくさん自由記述があって、出てきた声がほとんどが載っているということでしょうね。

◎五島委員　その中身のことではなくて、この会のアウトプットのこともちょっと考えて提案します。若者の市民参加を促すのですけれども、若者に限らないと思いますけれども、市民参加のレベル、単純に、例えば、中学生・高校生の意見をたくさん出してもらいたいのか、それとも、先ほどのヒアリングの紹介でもありましたけれども、例えば、読み聞かせの会に参加するのか、それとも運営側に回るのか、そこで大分違うのではないか。もちろんみんなに来てもらいたい、数が多くというのは、それはわかるのですが、はい、そうですかと、そういうふうには多分、いかないと思います。意見をたくさん欲しいのであれば、それなりのやり方は多分あると思うし、運営する側、意見を受けとめる側に若い人たちを入れたいということであれば、また取組の中身が違ってくるのではないかと思います。そこのところを整理しておかないと、例えば、先ほど、楽しい人の会が名刺交換会とかをやっていると聞きましたけれども、それも

同じですね。名刺を１００枚持って参加してくる人もいれば、それを企画して、何カ月も前から定期的に話し合いをして、広報を打ってチラシをつくっている人もいるわけですね。そこにも若い人を入れたりする。そうすると、そこは多分、違うので、そのステップもあるかと思いますけれども、その辺の整理をして、なおかつ具体的に会としてのアウトプットの時に、こういう時にはこういうふうにしましょうという例示でもいいので、なるべく具体的な提案を盛り込んだものにしたいなと思いますので、そこのところを意識して話し合いをしていきたいと思いました。

◎西尾委員長　どうもありがとうございます。

最終的には若者の参加が必要だというだけではなくて、明日からでもこれならできるというような、具体的なものを提案していくことが非常に大事だろうと思います。

それから、参加のレベルという言い方もありますし、タイプ、類型といいますか、いろいろな参加のあり方がある。それはどこか整理が必要だろうと思いますね。今日の後半のほうで少し考えたいと思います。

あと、論点で言うと、最後のアウトプットを今、考えるのは早いかもしれないのですが、なぜこれが必要かということも書かないといけないのではないかと思います。なぜ高齢社会の中で、若者の参加が必要かという理由づけのような記述も必要ですし、何度も出ていますが、参加と協働と活動ですね。あと、ユーザーとしての若者はあるだろうと思うのですけれども、ユーザーとしてあまり使っていない可能性もありますね。そういうところも、コンセプトの周辺にあるのではないかと思います。でも、最終的には具体的な方策を少しでも引っ張り出していきたいなと思います。

そういうことで、ある意味でこれは漠然としているかもしれません。具体的なものもあります。武蔵野プレイスのような施設をつくれ、強烈な意見ですけれども、行政がこれを受け取って、どうされるのですかね。私は大学で、去年まで学部長をやっていたのですが、そのことはかなり慎重にやったのですね。声を集めるといって集めると、責任が一気に生じるわけです。どうぞ、皆さん自由に言ってなどと言うと、体育館が小さ過ぎる、今の３～４倍は必要だとか、第一に出たのがそういうことなのです。でも、それは誠実に対応しないと、お茶ぐらい出すけれども、わざわざ集めておいて、こういう会を設けて、何だ、聞いたふりかということになるので、いろいろな声があっただけで済まないところがあるのではないかなと思うのですけれども、これはどう処理されるのですかね。

◎事務局　所管が違うので、適切なお答えにはならないと思うのですけれども、子ども・子育て支援事業計画をつくるために意向調査をされていると思います。子ども・子育て会議に諮問し、そこで計画をつくりますので、その中で、この調査結果についても踏まえることになると思います。全部の意見は聞きようがないと思いますので、どういうふうに計画の中に反映していくのか考えていただくスキームになっているのだと思います。

◎西尾委員長　２ページ目の最後から三つ目なのですけれども、アンケートがポーズでないな

ら、もっと宣伝等をして知名度を高めるべきだとか、アンケート自体に対する批判的な意見も出ていましたね。極論すると、できないものがあるのは当然なのですけれども、声を集めると、何らかの応答をする責任はあるかもしれないですね。

◎杉本委員　この声を集めることに関して、よろしいでしょうか。声を集めることは、こういう形でできると思うのですけれども、計画の段階から施設なり何なり、しっかりと同じテーブルで若い人たちもちゃんと議論をする場があれば、もっと積極的にその施設を使う主体になれるのではないかと思ったのですね。子どもはやはり言いたいことだけを言って責任が持てないかというと、案外そうでもないと私は思うのですね。杉並の青少年センターの運営管理を青年にやらせているのですね。運営委員会か何かつくって立ち上げたのですけれども、やはり自分たちに責任をしっかり任せられると、声を上げるだけとは違って、そこで調整しなくてはならないではないですか、いろいろな意見と。そこの訓練と言っては何ですけれども、そういう折り合いをつけることが、民主主義、あるいはまちづくりや市政の参加には必要だということをきちっと青年たちや子どもたちにもわかってもらうということが必要なのではないかと思うのですね。今の教育の現場というのは、私は随分離れましたけれども、だんだんそういうことから、おとなしくて優等生の子どもたちや、あるいは高校生、中学生は大量に増えているけれども、しっかりと話し合って意見の違いをきちっと認めて一つにまとめるという、そういう授業はだんだんちょっと、これは憶測ですけれども、遠ざかっているのではないかと思っていて、１８歳未満の選挙権を持つということが導入されてくれば、やはりきちんと自分たちが一つひとつ、そういう調整なり、いろいろな人たちの意見をまとめる能力というのはますます必要ではないかと考えているので、できればそういう場づくりを行政が率先して進めていっていただきたいと思っています。

◎西尾委員長　市民教育的な観点からの市民参加の設計というのですかね。

◎杉本委員　本来は生徒総会というのがあって、私たちの子どものころというのは、例えば、修学旅行に何を着ていくかということも、生徒総会の中で決めることができたのですね。けれども、今はどうなっているのか、よくわかりません。でも、そうした一つひとつの積み重ねが、教育の現場が大事だと。それが市民参加や、自分たちが言っていきながら、何かなし遂げられるという、そういった成果も含めて必要なのではないかと思っているのです。

◎西尾委員長　例えば、若者が書いたのを集めてみると、ある人間はスポーツ施設、図書館、勉強スペースとか、お金などというのがあるのですけれども、市が、これから５年間の財源は、投資的経費で使えるのはこのぐらいだと言えば、全部は無理だということはそれでわかるわけですね。では、それぞれのコストも違いますし、一体何を優先順位にやるのかとかということを若者に投げるような機会をつくる。それから、市政の勉強とセットにするといいと思うのですね。それも退屈なのではなくて、おもしろい、どれだけ大変かみたいなことも含めるとよいと思います。重要な優先順位をみんなで、自治でつくっていくというのは、本当に早い段階から経験するといいですね。

◎事務局　先日開館しました貫井北センターの２階に若者コーナーがあります。平成２２年度に実施しました市民の声を聞く会やアンケート調査で、大学生や高校生からいただいた意見をもとに若者コーナーとして楽器演奏が可能なスタジオを設けたということがございます。

◎西尾委員長　どうもありがとうございます。そのように実践はされてこられたわけですね。

◎杉本委員　ストリートミュージシャンがあちこちで出没して問題になった時に、東京都は制度でストリートを使用できるような仕組みをつくったのですね。路上だったり、都道だったり、広場だったりするのですけれども、若者がそういった仕組みを使って自分たちでできるというような、活動の場を仕組みとしてきちっと位置づけるということもできる。その時に若者を参加させる。あなたたちが楽器をひいたりしたいのだったら、一緒に、例えば、武蔵小金井駅の南口のここだったらいいのだけれども、こういうルールでだったらやってもいいよとか、そういうまちの仕組みに若者の具体的なやりたいことを、例えばですけれども、兼ね合わせるような形で参加させれば、若者も真剣に議論するのではないかと思います。

◎五島委員　今の話で、受ける側、器側のほうの運営にまで全部入ってしまうと。高校生だったら高校生が自分たちでルールを決める。そういう環境、機会なりをどうやってつくるかということではないかと思います。若者に限らないけれども、市民参加の場は、意見だけくださいということをしがちだと思うので、そうではなくて、言ったら、言ったことに責任を持ちなさいよというぐらいの場のつくり方というか、参加の仕組み、そういう渡し方をすれば、普通の市民なので、相応の責任を持って発言するだろうし、言ったことを自分たちでまとめていくようなことにもつながるのではないかと思います。

◎赤羽委員　以前、私も少しはっきりしないことなのですけれども、児童館で子ども会の行事があった時に、中学生が何人か手伝いに来てくれていました。なんで手伝いに来てくれたのと聞くと、学校でポイント制になっていて、ボランティアのような活動をするとポイントがつくので、ポイントをたくさん貯めたほうがいいから来ているという話でした。それもきっかけをつくる一つの方法だと思います。今、五島委員が言われたように、企画をして、子どもたちが何かをやっていくということはすごく意味があることだと思います。学校単位でそういうきっかけをつくる何かを一緒にしてくださったら、多分、参加してくれるでしょう。保護者会でもこの間聞いたのですけれども、今の子どもたちは失敗するのが嫌で手を挙げなくなってきています。間違うぐらいなら手を挙げないという状態になってきていて、そつがなく生きたいと子どもでも思っているのはすごく悲しいことです。学校のほうからもいろいろな活動に参加する対策として、参加するとポイントを付与するという、全体としての取組があったほうが、参加してくれる子が増えると思います。一度参加すると、すごく楽しいので、学校の勉強とは全然違って、何かをつくって、達成感もすごくあると思うので、そういうものができたらいいのにと思います。

◎西尾委員長　ポイントだろうが何だろうが、きっかけになりますね。

◎赤羽委員　ポイントというのは、「えっ」と思ったのですけれども。

◎五島委員　手前みそで恐縮ですが、チラシをお配りします。国立で活動しているのですけれども、「こども自転車安全体験ツアー」という名前で、親子で参加してもらって、国立のまちの中で自転車の乗り方を伝えようというイベントをやっています。この中に、当日の運営で、国立には都立の第五商業高校というのがあって、クラブに五商の先生が入っているので、なおかつ五商の中に地域活動みたいな授業があって、カリキュラムの中に、先生が外に出ていく活動をいくつか選んで、生徒が選ぶのですね。そうすると、ここに出ていかないと単位がもらえないので、生徒は自分の行きたいところで手を挙げて入っていくわけなのですけれども、申しわけないけれども、何も知らない高校生がぽんと入ってくるので、事前に講習をして、こういうことをやりますよ、あなたたちの役割はこうですよと僕らがつくって渡して、当日の運営の手伝いをしてもらったりしているのですね。

そうすると、今の高校生なので、自転車の乗り方なんて知らないので、まずそこが学べる。なおかつ自分たちが役割を持って、子どもなり、お母さんの相手をしたりしなければいけないので、そういう意味では、参加の場になっているのだろうと思います。多分、その高校生たちが地元に帰ると、自転車の乗り方が変わっているだろうと期待するし、また自分の立場も同じに伝わるのではないかということを期待をしているし、もっと言えば、自分の住んでいるまちで参加してくれないかなということも期待をしています。

何を言いたいかというと、前半の話でありましたけれども、どういうテーマ、入り口を設定するかに尽きるのだと私は思っているのですね。参加したくなる、それだったら行ってみようかなと。それは、友達から誘われるとか、何でもいいですけれども、それをどれだけいろいろな、まさに個々の取組、サッカーやりたい人もいれば、図書館で本を借りたい人もいるわけで、この入り口をどういうふうにつくるか。

◎西尾委員長　自転車について言うと、このごろは自転車レーンの整備が東八も進んでいて、よく話題になりますね。オリンピックまでに東京都がかなり増やすと言っていますね。そのルールについて、知事が何か言ったことが物議を醸していると思います。実は、我々の世代は、中学のころからかな、ある日、歩道を走っていいということになったのですね。でも、国際的には歩道に自転車を走らせる国はほとんどないのですね。だから、それが基本的に車道であるということになって混乱して、でも、自転車レーンというのをつくり始めて、ルールは決まっていないのではないですかね。もちろん、こういうのは市域を越えたルールでないといけないのだけれども、試行錯誤の時期がしばらく続くのではないかと思うので、こういうふうなルールづくりに若者が関与するとか、それはやってみるとおもしろいなと思いますね。

◎杉本委員　今の五島さんのご意見を聞きながら、自転車のルールづくりもしかり、要するに、具体的な切り口がありますね、いろいろ。例えば、うちの息子たちがさんざん文句を言ったのが、小金井市の図書館を何とかしてくれと。

◎五島委員　わかりやすい。

◎杉本委員　すごくわかりやすい。今、五島さんが言ったように。蔵書がどうしてああいうふ

うな状態なのかとか、いろいろ言いたいことはいっぱいあるらしくて、使いづらいということも含めて。では、なぜ全然改善しないのかというところから、若者に、あなたたちの意見が図書館を変えますよというキャッチコピーで集めれば、集まってくるのではないかと思うのですね。自分たちの意見が十分反映されるような仕組みをつくれば、それを例えば、年に１回、図書館の今の実態を自分たちの使いやすいものに変える会みたいなものを行政側で設定してもらって、それを行うとか。自転車のルールづくりもそうですし、具体的にテーマを挙げて、まちづくりに参加して、それがちゃんと実現できるようなインセンティブを持たせるような、そういう仕組みが、今、ちょっと思いつかないのですけれども、そういうところから考えてみてはどうかと思うのです。

◎古畑委員　川合さん、図書館もこういう委員会があるのでしょう。運営委員会。図書館を運営するに関して。それから、公民館の運営委員会もあるでしょう。そこは何を議論しているのだろうね。

◎川合委員　その中でも、それぞれのテーマごとには議論しているはずです。

◎古畑委員　そういう情報が僕らに入ってこないからね。今のサンプル的なテーマしかね。そういう情報が共有できれば、ダブってしゃべらなくてもいいと思うけれどもね。

◎川合委員　ホームページに会議録が載っています。

◎古畑委員　市報にもよく募集のあれが載っているからね。

◎西尾委員長　多分、やっている可能性はありますけれども、よく見えないところがありますね。

◎古畑委員　全然見えませんよ。

◎西尾委員長　若者の声をできるだけこれから市政に反映するとか、市長が仮に言ってくださるとして、第１期のテーマは図書館と自転車とか、イベント風にやって、それで若者が来るかどうかは何とも言えないのですけれども、やはり最初は行政のサービスみたいなことで、例えば世界の自転車道路について講座のようなものをやると、勉強もできて、こうならこうしたいというような、意見が誘発されるのではないかと思うのですね。ただ「自転車レーンができるそうですから意見を言ってくれ」とか、「ルールについてのコメントをどうぞ」と言うよりも、こちらから出て行くといいますかね、いろいろな情報や知識を提供することが必要ではないかなと思います。それも、イベント風にやるとよいと思います。本当に責任を持って言えるのは高校生か、大学生以上かもしれないのですけれども、小さい時にそういう経験を根っこでしておくと、その次のバージョンに高校生になって参加したら、例えば、優先順位をつけるなどというのはかなり高度な話ですから、長期計画にどんな形で関与するかとか、そのようなことに参加できるという感じがいたします。

それで、浅野先生の項目にあるのですけれども、長期計画について、これは大きいですね。

◎浅野副委員長　市民活動と市政参加と両方含めて、若者の参加を促進するという考え方に二つあると思いまして、今、出ていた、具体的な問題を通してやるという、例えば、すぐ思いつ

くのは、土浦駅の前でスケートボードをやっていた若者たちが市と対立して、自分たちがスケートボードを練習できる時間を市との協議の中で場所と時間を決めていくみたいなことをやって、具体的に市と若者の両方がぶつかり合う場面があると、そこが参加を促進するチャンスになってくるのですね。彼らが言うとおりにする必要は全然なくて、要求があるのだったら、しかるべきルートで、こっちの条件も勘案して話し合おうではないかというふうに持っていくチャンスだとそこは思うのです。

もう一つが、もっと大きな枠組みで、小金井市の場合で言えば、長期計画策定の際に若者として参加させる。前の前の時にもそういうお話をしたと思うのですけれども、京都市がかなり組織的にこれをやっているのですね。京都市が市の長期計画を立てる時に、今は若者会議という名前になっているのですが、当時は違った名前だと思いますが、若者だけを集めて、市の長期計画の中にユースアクションプランを組み込むための組織をつくったのですね。それは今でも続いていて、京都市若者会議という形で、半ば常設的な組織として継続していて活動しているということがあり、そういう個々の、すごく具体的なイシューに即したものではなくて、もっと長期的で、施設の管理に当たるような形で参加を組織化するということもあり得るものです。

ただ、京都市の場合、それがなぜ成功したかというと、財団法人ユースワーク協会というＮＰＯがあって、これは 80 年代からずっと活動していた、かなりきちんとした、活動の活発な団体で､そこと京都市が連携してそういう企画を進めていったということです｡小金井市の場合、市がそういうことを全部できるかというと、結構難しいのだろうなと。実際、若者をリクルートしてくる、若者をインストラクトして実際の会議が成り立つようにしていく、そういったいろいろなことを、いわば市と協働しながらやっていくような団体があるかというと、どうでしょうか、難しいでしょうか。私が知らないだけかもしれませんけれども、そういうところとの協働でそういう大型の参加が成り立つということがあると思います。その一歩手前で我々に何ができるかということだと思うのです。

◎五島委員　協会に有償で出すものであれば、協会でなくてもいいのですけれども、そうすれば可能性はあるのではないですか。そういう、維持していくという部分で。それを全部ただボランタリーで続けるのは、たぶん無理というかあり得ない話なので。そういうことのノウハウも含めて、持っているところはあるとは思います。そこを使ってそういうことを、機会なりを維持・継続していくのであれば、それは行政側のスタンスだと。

◎浅野副委員長　京都市のユースワーク協会という、財団法人なのです。だから、そもそもそれがつくられて。

◎古畑委員　商工会議所の下部組織になっている。

◎浅野副委員長　そういうのがつくられたということの背景に必然性というか、やはり歴史があったのだろうと思います。

◎古畑委員　世代交代ということを考えてつくったのですよ。それが発展しているのではない

の。

◎西尾委員長　ＪＣ（青年会議所）はどうでしょう。

◎浅野副委員長　小金井市のＪＣは活発なのですよね。

◎西尾委員長　そう聞いています。三鷹市でもそうです。

◎浅野副委員長　長期計画の中に、若者を何らかの形で策定に能動的に参加させる仕組みを。

◎西尾委員長　言うのはできるのではないですかね。長計の委員会はいつスタートしますか。

◎事務局　来年の２月からです。そういう観点でいきますと、今回は後期基本計画なので、基本構想の大もとがあって､それの後半版というイメージです｡そういうのをやったりするのは、大体、大もとの基本構想をつくる段階の時で、小金井市の場合ですと、第４次小金井市基本構想の場合は子ども懇談会というのを開かせていただいているのですが、そういった枠組みの中で、若者の参加というか、若者の意見を聞いています。あと、青年会議所と協働して市民討議会を開催し、若者だけという形ではないですけれども、多くの意見を聞いて、基本構想をつくっています。後期の段階でそういうのを入れていくというのは、かなりハードルが高いというか、難しいかなという感想は持っています。

◎浅野副委員長　大もとの構想の中に多様な世代の参加というのがうたわれていて、それがここまでの段階で何らかの形で実現されているかというと、多分、この会議でやった公募委員制度ぐらいだと思うのですね。だから、いわば構想には書き込まれているけれども、実際には停滞していると私は思うのです。だから、そこに一段ギアを入れるために、後期でも何かやってもいいかなと思うのですが、問題は、何をしろというふうに提案するのがなかなか難しいだろうなと。何か実際にできそうなことを市から言うというのは難しいかなと思っています。

◎西尾委員長　まあ、言ってみればいいのではないでしょうかね。

◎浅野副委員長　若者会議をやれとか、それこそ。

◎西尾委員長　２月にスタートして、期間はどのくらいですか。

◎事務局　１２月ぐらいまでです。

◎古畑委員　青年団などはあるのですか。若者というと、学生と子どもばかり相手にしているみたいだけれども、青年団みたいなものはあるのですかね。ないの。

◎浅野副委員長　昔はありましたよね。

◎古畑委員　農協などには青年部あるでしょう。リアルに生活している人をメンバーに入れないとね。

◎西尾委員長　ＮＰＯでなくてもいいですが、何か活動団体がリストになりますかね。もちろん網羅的でなくてもいいのですけれども。あるのではないかと思いますがね。農協とか、いろいろな形で。

◎古畑委員　農協とか、商工会とかね、そういうところの青年部会あるでしょうしね。ああいう人たちは現実にリアルに生活しているから、いろいろまちについてのお考えもお持ちになっているのではないか。

◎五島委員　結局、企画メンバーになって、委員会をつくりましょうというふうになってしまうのです。そうでなくて、開いておいて、開催日時は決めておいたとしても、いつでも来ていいですよみたいにしておくとか、そういう場のつくり方をしないといけない。

◎古畑委員　そうはなるのですが、この委員会にそのようなオーソリティーはあるのか。

◎五島委員　だから、今、先生が言われたように、それこそオフの時にいろいろ話し合いをして、こうやったらどうですかという話を出すとか、そういうことをしてもいいのではないかと思ってしまいますね。

◎浅野副委員長　長期計画のことで言うと、この子育て支援ニーズ調査を今後どういうふうに生かしていくのか。つまり、子ども・子育て会議はまだ始まっていないというか、メンバーが決まっていないのですね。

◎事務局　決まっています。２回ほど開催していたと思います。

◎浅野副委員長　多分、そちらのほうでこういう調査データは、分析されたり、利用されたりすると思うのですけれども、そこには若者の市民参加という観点はそれほど入っていないと思います。我々の目から見ると、このデータから何か有益なことがありそうだと。長期計画のほうにもそれを生かして、今度はこうなったらいいのではないかと思うと。だから、長期計画と子育て支援との間でもうちょっと連携がとれるようにする。つまり、我々のほうから、子育て支援課でやったこの調査のデータを長期計画に生かせよというふうに言うことはできませんかということなのです。このニーズ調査の報告書を単純集計レベルで公開されていますけれども、これで終わりになるとすると、結構な労力とお金をかけて調査をやったのに、活用としてはもとがとれていないと思うのですよ。もうちょっとちゃんと分析して、きちんと生かしたほうがいいかなと思うのですね。そういうことの一環として、生かし方の一つとして、市民参加ということがあり、それを長期計画に反映するという道もあるのだということを我々のほうから言うと嫌がられるでしょうね。

◎西尾委員長　事務局は知りませんが、委員会は、委員としてここに集まっていろいろアイデアを出すというのはよいことです。いろいろ意見をもらったほうがよいと思います。だめだと思えば言わないだけの話です。

◎古畑委員　でも、基本、お願いすれば、いろいろな意見出してくれると思うけれどもね。

◎西尾委員長　坂爪さん、何かありますか。

◎坂爪委員　すみません、ちょっと難し過ぎて、皆さんの言うことを一々、ああ、なるほど、なるほどと思い、ちょっと違う意見を聞くと、ああ、なるほど、なるほどと思います。私も全然素人なのでわからないので、皆様の言うことは一々もっともだなと思って、ただ、こちらを立てればこういう障害があって、こっちをすればまたこういうのがあって、なかなか難しいなと思います。ただ、子育て支援のあれだと、少しでも、一方通行で壁をつくるよりは、すき間でもいいから、つながりがあるとよいのかなと、少し思いました。

◎古畑委員　どこの団体が何をやっているかもよくわからないような現状の中で、こういうこ

とをやっていくということを紹介するだけで大きな成果があるのではないかと私は思います。

◎西尾委員長　市民団体の調査を三鷹でやったことがあるのですけれども、その初めの時点では、そもそも何団体あるか見当もつかないのです。５００ぐらいありますかと言うと、あるかもしれませんと言われました。なんと千の単位なのです。ＰＴＡも数えたのですけれども、行政が、各部署が接点を持っているわけで、いろいろなグループ、町会、教育委員会はＰＴＡ、そういうふうなのを芋づる式にやっていくと、すごい数があります。その時、とても行政がこれを把握することはできないなと思いました。そういうのが出てきて、私が自分で知っている団体が出てこないわけです。教会で、かなりの予算をもって日本語教師をタイに送っていたりするのは、閉じた話なので、わからない。それを把握するのは難しいのですけれども、例示的に、今回、こういう議論の中で出てくるものは非常に参考になると思いますね。そういうのが、市民活動かもしれないけれども、市民参加といろいろな接点を持ち得るというところは記述していきたいと思っています。

◎浅野副委員長　小金井市もありますよね。市民団体のリストって、前の前の期ぐらいに資料として出されたことがあるので、ある程度、多分、把握されていると思います。

◎西尾委員長　こういうところで利用するところのリストとかね。

◎浅野副委員長　問題はその把握している情報をどう活用するかということですね。

◎古畑委員　この間、あそこに行ったらば、市民団体リストがあって、膨大な量で、６００ぐらいあるのですよ。辞書ですよ。厚さが１５センチメートルぐらいあるかね。非常にわかりやすくまとまっています。あれを見ると、市民の人も、俺もここに入ってみようかなと。ちょっとした大辞典だね。あれだけでも立派な仕事ではないかな。

◎西尾委員長　ボランティア団体みたいなくくりで、市民団体みたいなものをつくっていたりもしますね。

◎五島委員　ホームページでＰＤＦがありますね。

◎西尾委員長　市民活動団体リストですね。統一のフォーマットでリストがあればね。

◎古畑委員　こういうのをつくるのも一つの仕事になる。

◎五島委員　参考文献、報告書の注のところで、すごく手間がかかりますよ。

◎古畑委員　かかるでしょうね。

◎五島委員　それでなおかつ更新していかなくてはいけないではないですか。すごい手間がかかる。

◎浅野副委員長　もう一点、さっきの続きなのですが、男女平等推進審議会ですか、そこの市民参加に関連する提言をこの間出した文書でも含んでいるのですよ。だから、ここだけではなくて、市民参加に関連する要素を含んだ仕事をしているところがいくつかあって、だけれども、それぞればらばらに動いているようなところがあり、なので、それを串刺しにする形でまとめてやりなさいというふうに言う権限を我々が持つことはできないのでしょうか。

市民参加という１点に限って言えば、ここが一応、一番オーソライズされた機関ですね。だ

から、そういうことで言えば、ほかのところでやっている、このデータは、市民参加の観点から長計で使えるだとか、使えないとか、男女平等で言っているこれも、計画の中でどう実装されるのか、ちゃんと示せとかいうことを言えるはずだし、言うべきかなと思うのですが、どうでしょう。

◎古畑委員　これは非常に評価高いね。動きはね。お金もかけているせいかな。こういう会であってもそこそこのね。スピーカーもいるしね。

◎川合委員　全体的なところで、こういう視点でやるのだよというところは言えると思うのですね。ただ、個々の委員会の中での与えられたものがありますから、そこへ越境して入っていってしまうというのはちょっと、そういうふうな視点がいいかなと。市民参加を考える上で、各委員会においてはこういうことをあれしなさいという、全体的にかぶせられるようなものであれば、この委員会としては触れていってもいいような気がします。

◎浅野副委員長　ただ、ある程度、越境する、ややぶしつけな事柄が許されないと、この会議のやることは多分なくなってしまうと思うのです。ある程度ぶしつけなことを除いてしまうと、この会議が扱うテーマはものすごく小さくなって、恐らく次期は今期よりもさらに何を話し合うべきなのかということについて苦労することになるだろうなと思います。例えば、市庁舎をどこに建設するかみたいな実体的な問題として市民参加があるわけではないのですね。市民参加は空気や水のように偏在しているものなので、その都度、いろいろなところに手を突っ込んでいかないと、話を進められないと私は思うのです。どこにも手を突っ込まずに、ここでできることだけをやろうと思うと、何も話し合うことがなくなってしまう。

◎古畑委員　金の冠をかぶせたら、ほかの委員会でも自分をアピールしてしまうのね。結局、市民のことだからね。

◎浅野副委員長　だから、どこかでバッティングせざるを得ない。

◎五島委員　すみません、思いつきで言いますが、市民参加条例を補うガイドラインみたいなものをここでつくったらどうかなと思うのです。

◎西尾委員長　何か必要でしょうね。器はあるのですが、魂を入れたいなと思うんですね。

◎古畑委員　市民という概念でくくれば、全部市民活動に入っていく。

◎五島委員　若者の参加で、なるべく具体的に、こういう時はこうしましょう、こういうテーマ設定でいきましょうと思いますけれども、答申は役所が受けるだけなので、そうではなくて、ここでガイドラインみたいなものをつくって、公にできるものをつくるとか、答申にくっつける補足資料にするとか、そんなようなことができないかなと思います。思いつきですけれども。

◎浅野副委員長　条例の解説の実践版みたいな。

◎五島委員　どこまでできるかわかりませんけれども、こういう時はこうしましょうみたいなものです。

◎西尾委員長　話が非常に佳境に入っていったところですが時間なのですね。いただいた提案は、それぞれいろいろな論点を含んでいますので、完全に議論を尽くしていないことは承知な

のですが、今いただいた、いろいろな提案、ご意見を、ワーキンググループで、全員参加は無理かもしれないのですけれども、もんでみたいと思うのです。そのことを了解されたら、日程調整をしたいと思うのですけれども、いかがでしょうか。次が１１月になりますから、一回どこかでワーキングで膝詰め談判的に詰めていきたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

（「賛成です」の声あり）

◎西尾委員長　では、一度休憩します。

（休憩）

（再開）

◎西尾委員長　では、休憩を終わりまして、次回のこの会合は１１月１４日金曜日の６時からとします。それから、それ以前にワーキンググループを１０月３日の５時半から開きたいと思います。場所等は追ってお知らせしたいと思います。

　では、今日はどうも皆さん、ご苦労さまでした。

（午後８時０６分閉会）